

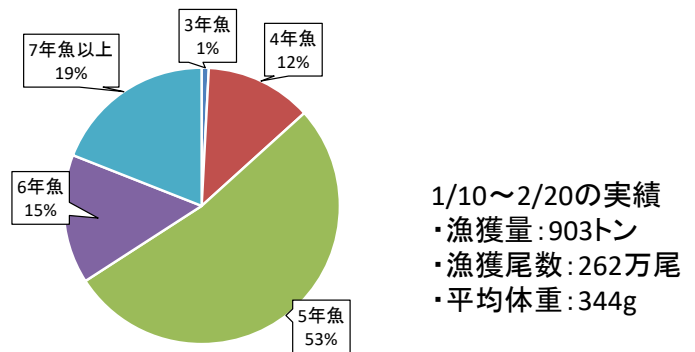
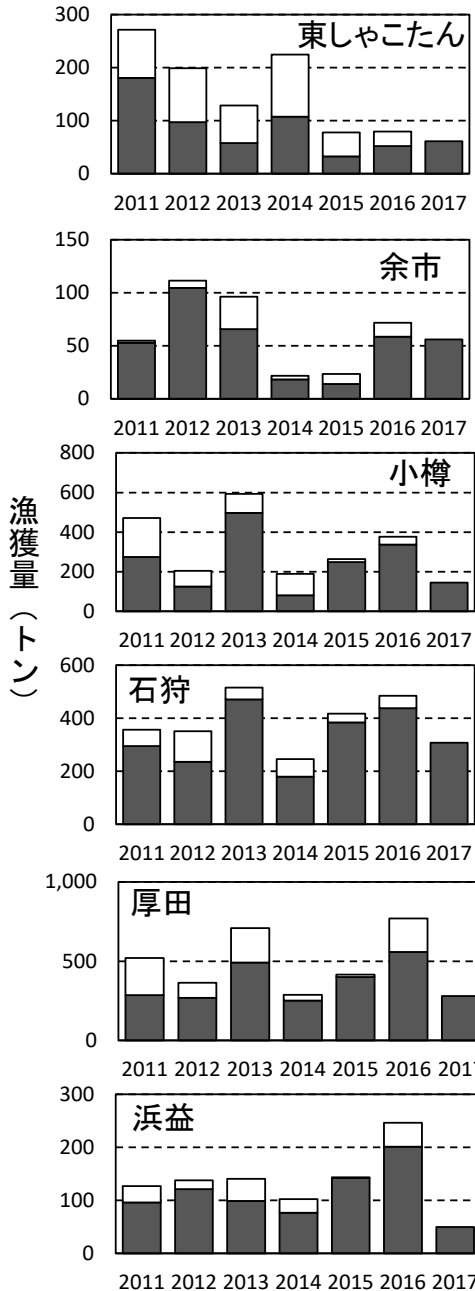
# 平成28年度 石狩湾系ニシン 漁期前半の状況と今後の見通し

平成29年2月28日 中央水産試験場

## 1. 漁期前半の状況（石狩湾沿岸）

解禁からしばらく湾沿岸での漁獲はほとんどなく、1月末から2月初めにかけてようやく余市～小樽方面で漁獲がまとまるようになりました。漁期前半（1月10日～2月20日）の東しゃこたんを含む石狩湾の総漁獲量は約900トン（指導所集計に基づく暫定値）と、昨年同期の5割程度で推移しています。東しゃこたん・余市方面では昨年とほぼ同程度で推移しているものの、小樽地区や厚田地区では昨年同期を大きく割り込んでいます。4年魚以上の資源重量が昨年を大きく下回っているうえに、沿岸への来遊が著しく遅れたことが漁獲減の背景です。

来遊遅れの要因は二つあり、昨秋から年末にかけての成熟進行が遅かったことと、沿岸域の水温が近年まれにみる低さ（2℃前後）で推移してきたことが挙げられます。そのため湾沖に達する時期が遅れ、さらに湾内に入ってから沿岸漁場に寄りにくかったのではないかと考えられます。その結果、産卵も大幅に遅れたため2月中旬でも大型魚が滞留している状況となり、厚田方面では下旬に入っても大型魚主体で好漁となっています。前半期の漁獲物の特徴は、5年魚（2012年級）が重量比で全体の53%を占め主体となっています。6年魚以上についても堅調な来遊があったことから、より大きなニシンを狙うため2.4寸目以上の刺し網が多用される傾向があり、漁獲割合も34%と高くなりました。前半期の漁獲物の平均体重は344gと推定され、昨年同期と同程度の大型サイズとなっています。一方、4年魚（2013年級）については資源量が少ないとみられ、このことが昨年より来遊資源量全体が減っている大きな要素となっています。



1/10～2/20の実績  
 ・漁獲量: 903トン  
 ・漁獲尾数: 262万尾  
 ・平均体重: 344g

図1 湾内各地区の漁獲量

■: 1月10日～2月20日 □: 2月21日～3月末

図2 2月20日時点までの漁獲物重量比(2017年)

↓次項へ

## 2. 今後の見通し

沿岸産卵場はきわめて低水温で推移しており、27日時点で小樽方面でようやく3℃前後まで上がってきた状況です。それでも、後志方面では既に数回の群来もみられ魚体の小型化が進んでおり、今後の外気温も高めの予報が発令されていることから、厚田方面の大型高齡魚についても水温の昇温とともに産卵が急速に進み、漁獲物の小型化がいつそう明瞭になってくるのではないかと考えられます。今週の浜回りでも、既に例年3月の主役となる22, 23入/5kgの箱が目立つようになってきていましたが、これらは3年魚（2014年級）が主体とみられます。今期は4年魚より3年魚の来遊資源量が多くなる見通しであるうえに、漁期前予報でもふれたとおり、今期の3年魚の成長が近年になく良いことから、2.0寸以上の目合にも掛かってくる割合が大きくなるのではないかと思います。したがって、3月以降もここ数年に比べると漁が続くのではないかとみていますが、大型魚が去り漁獲物を3年魚が大半を占めるようになった場合は、次年度以降への取り残し分と、生残が良いとされる終盤での産卵・ふ化群を確保するためにも、昨年同様に早期切り上げを視野に入れる必要も出てきます。今後の漁獲物速報を注視ください。